

令和 5 年 5 月 16 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14258

研究課題名（和文）日本人の非伝統的海外留学の拡大とそのメカニズム解明

研究課題名（英文）Study on Japanese's Non-traditional Study Abroad

研究代表者

星野 晶成（Hoshino, Akinari）

名古屋大学・国際本部・准教授

研究者番号：40647228

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、非伝統的留学プログラムの開発・実施には、「大学的」、「人的」、「学生（受益者）的」、「地政的」要因・動機が存在し、それらが「開発・実施の促進」と「目的・内容の決定」の意味を持ちながら、お互い有機的に影響し合っていることがわかった。そして、留学プログラムによって、これら要因・動機の影響力、及び影響の仕方は異なっていた。教職員は、所属大学の特徴、及び学生の性質・需要に合致するプログラム開発・実施を検討しながらも、教職員の個人的立場から利点が生じる意味づけをし、その実現行動の一つとしてプログラム開発・実施に携わっていることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究結果は、日本人の海外留学が「短期化」、「多様化」、「プログラム化」、そして「大衆化」といった変容を遂げる中で、この特徴が顕著な非伝統的海外留学を用いて、その実態（設計/取組/課題等）を明らかにしたことになる。この解明は大学が社会的要請と自大学生の需要を合わせて、海外留学プログラムの開発・実施を戦略的いかに実践するか共通原理になると思われる。ひいては、「大学の国際化」と「グローバル人材育成」の実践活動を担う大学教職員への実務的ノウハウに蓄積につながる。

研究成果の概要（英文）：This research project found that "university," "human," "student (beneficiary)," and "geopolitical" factors and motivations exist in the development and implementation of non-traditional study abroad programs, and that they organically influence each other, with implications for "facilitating development and implementation" and "determining purpose and content. The influence of these factors and motivations, and the manner in which they influenced each other, differed among study abroad programs. While considering the development and implementation of programs that match the characteristics of their universities and the nature and demands of their students, faculty and staff also made sense of the benefits from their personal standpoints and engaged in program development and implementation as one of the actions to realize these benefits.

研究分野：高等教育

キーワード：大学の国際化

1. 研究開始当初の背景

今日の経済の国際的相互依存関係の深化、情報通信技術の長足の進歩、そして知識基盤社会の台頭は、高等教育と人材育成のあり方に大きな影響を与えてきた。これに対応すべく、世界各国の大学は「国際化」を掲げ、その実現の一端として大学間留学交流を拡大している。現在の海外留学の主流は、先端知識や情報、及び教育・研究環境を求め、発展途上国から先進国へ向かう動きである。この大半は学位取得目的の長期間海外留学であり、学生個人(私費留学)や政府支援(国費留学)等を受ける両方の形態がある。反対に、先進国では学位取得目的ではなく、短・中期間の海外留学(1ヶ月～1年間程度)が支持されている。例えば、EUのエラスムス計画、米国の Junior Year Abroad がそれにあたる。この形態では、大学生が自大学に所属しながら既存プログラムに参加する。

日本からの海外留学に関して、2020年初頭のコロナパンデミック以前では、長期間の海外留学は2004年以降から減少し、反対に日本の大学に在籍しながら短・中期間の海外留学を経験する人数は急増している。これは、文部科学省の競争的補助金事業を獲得した大学が積極的に海外留学経験を学位課程内に卒業単位として導入し、プログラム・カリキュラム化が実現していると示唆される。また、米国等の英語母語国以外に、日本との政治経済的関係が強固になっている ASEAN 諸国等への海外留学も増加している。この特徴から、日本人の海外留学の「短期化」、「多様化」、「プログラム化」そして「大衆化」が議論されてきた。

海外では、長期海外留学(学位取得目的)の参加学生の留学動機に着目する研究が多く、「留学先国へ引き寄せる要素」と「自国から押し出す要素」に基づいて分析するプッシュ・プル要因論が一般的に用いられている。これらの研究では、「金銭面」、「卒業後の雇用可能性」、「留学先の教育研究環境」等が海外留学の動機・決断の主要因とされている。短期間海外留学(1ヶ月～1年間程度)では、学生の留学前後の語学力や異文化理解力の向上を測る研究が多く存在している。この研究では学生の準備・意識、そして、学生の滞在中に与える負荷の加減によって、向上度合いが異なることが示されている。

これまでの先行研究は、海外留学のステークホルダーである「政府」や「参加学生」を中心に研究がなされており、「政策分析」や「参加学生の動機・成長」が主な研究対象になっている。また、海外留学先を区別せず、英語先進国を前提に論じる傾向がある。もう1つのステークホルダーである「大学」を対象にして、活発な研究は行われてこなかった。そのため、大学が政策施行と自大学生の需要をどのようにプログラム開発・実施取り入れてしているかという機関個別の動態がまだよくわかっていない。これら3ステークホルダーを踏まえての議論ができず、現在進行する海外留学の「短期化」、「多様化」、「プログラム化」、「大衆化」を十分に分析し得る知識が蓄積されていないため、関連教育政策の効果検証や評価に精度を欠いた状態にある。

2. 研究の目的

本研究の主目的は、近年増加している大学が企画・実施する非伝統的海外留学プログラム(ASEAN、アフリカ、中南米)に着目し、その生成メカニズムを解明することであった。そのため、「日本人大学生の非伝統的海外留学プログラムの開発・実施を可能にする要因は何

か？そして、そのプログラム生成の因果メカニズムはどのようなものか？」という問いを立てて、調査研究を実施した。

しかしながら、2020年初頭のコロナパンデミックの影響で、アフリカ中南米を対象とする調査ができず、ASEAN地域のみを対象となったことに、本研究の課題は残る。

3. 研究の方法

本研究の調査手法として、大学の事例研究を採用した。ASEAN地域に多く学生を海外留学させている性質のことなる4大学に所属する教職員へのインタビューを主調査とした。そして、先行研究の少ない「大学」と「教職員」に焦点を当てている。また、インタビューデータの分析枠組みとしてセンスメイキングの視点をを用いた。以下その詳細を述べる。

まず、研究手法として、2010年前後から急増しているASEAN留学プログラムの開発・実施の要因・動機の特定、そして、これまで研究知見の少ない大学の教職員を対象に留学プログラムをどの様に開発・実施しているのかを本研究目的に設定していることを踏まえると、事例研究という手法が一番適すると判断した。そして、事例研究の対象大学の選定は、2015年度の日本学生支援機構の「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」をもとに、ASEAN留学の実績が高く、かつ異なる性質を持つ4大学を選出した。そして、1大学につき7-8名の役職・業種の異なる教職員に対して、対面式の半構造化インタビューを実施した(合計29名)。このインタビュー・データを帰納的にコーディングした。「要約」や「見出し」となるわかりやすい項目としてオープン・コーディングをおこない、その後、オープン・コーディングと各インタビュー・データやそれを補足する公刊資料とを何回も読み返し、比較し、そして関連性を見つけて、より抽象度の高い項目としての焦点的コーディングを施した。さらに、この焦点的コーディングをカテゴリーごとに類別して、大学におけるASEANプログラムの開発・実施に影響する要因と個別教員の動機の特定とその関係性を分析する材料とした。

センスメイキングの視点を扱う妥当性として、教職員はこれまでとは異なった環境の変化を認識しつつ、その中で各個人の社会的文脈で得てきた知識、経験、信念、価値等を踏まえて、ASEAN留学プログラムを開発・実施しているという構図を仮定した。この構図をもとに、教職員が認識する環境の変化からASEAN留学プログラム開発・実施に影響する要因・動機をインタビューデータから引き出し、そして、それら要因・動機がどのように関連して、教職員の中で意味づけされているのか分析して、留学プログラム開発・実施の構造の一端を解明しようと試みた。

4. 研究成果

本研究の目的である「日本人大学生の非伝統的海外留学プログラムの開発・実施を可能にする要因は何か？そして、そのプログラム生成の因果メカニズムはどのようなものか？」に対して、ASEAN留学を事例にしたときの結論は、以下のようにまとめられる。

「ASEAN留学プログラムの開発・実施には、「大学的」、「人的」、「学生(受益者)的」、「地政的」要因・動機が存在し、それらが「開発・実施の促進」と「目的・内容の決定」の意味を持ちながら、お互い有機的に影響し合っている。その結果、「語学学習型」、「学術分野型」、「異文化・地域理解型」、「インターンシップ型」の4類型にプログラムが区別される。開発・実施を担う教職員、そして、留学プログラム類型によって、これら要因・動機の影響力、及

び影響の仕方は異なる。教職員は、所属大学の特徴、及び学生の性質・需要に合致するプログラム開発・実施を検討しながらも、教職員の個人的立場から利点が生じる意味づけをし、その実現行動の一つとしてプログラム開発・実施に携わっている。」

この結論は、プログラム開発・実施者である教職員は、日本人の留学促進政策やグローバル人材育成といったトップダウンの国家的政策動向が活発化されている中でも、教職員個人のこれまでの経験・考えに基づいた、利己的・合理的判断をもとにして留学プログラムの開発・実施をしていることを意味する。そのため、政策施行の受動的行為者よりは、学生と政策の間で双方の状況を汲み取りつつ、自身にとっても利益があるように能動的に行動する教職員の内発的実態を明らかにしたことになる。また、この結論に基づいて、要因・動機、そして教職員の意味づけがどの様に関わることで、4つの留学類型(語学学習型、学術分野型、異文化・地域理解型、インターンシップ型)に帰結するかの概念モデルを提示している。また、本研究の成果として、留学のアクターとしての重要性が低かった日本の大学が、組織的に留学に関与する様になり、学生と留学先との間に生じる単純なプッシュ・プル要因だけで捉えきれない現状を指摘し、留学の動機研究に対して、センスメイキングという視点を新たな理論的枠組みとして提示したことになる。

また、本研究課題をもとに博士論文を執筆・提出し、無事受理され、博士号を取得した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Hoshino Akinari	4. 巻 Online First
2. 論文標題 How Japanese Universities Develop Study Abroad Programs in Southeast Asia: A Sensemaking Perspective	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Studies in International Education	6. 最初と最後の頁 Online First
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/10283153221093125	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 星野晶成	4. 巻 22
2. 論文標題 大学教職員の留学プログラム開発への一考察 - センスメイキングの視点から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋高等教育研究	6. 最初と最後の頁 231 - 243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko Shimmi, Hiroshi Ota, Akinari Hoshino	4. 巻 107
2. 論文標題 Internationalization of Japanese Universities in the COVID-19 Era	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Higher Education	6. 最初と最後の頁 39 - 40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.36197/IHE.2021.107.19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 星野晶成	4. 巻 0
2. 論文標題 短期留学プログラム開発・実施の構造に関する研究 -日本の4大学のASEAN留学プログラムを事例として-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 名古屋大学 博士学位請求論文	6. 最初と最後の頁 1-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 星野晶成	4. 巻 50
2. 論文標題 なぜ日本の大学はASEANで留学プログラムを開発・実施するのか? - 4大学の事例を通して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際開発フォーラム	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Hiroshi Ota, Yukiko Shimmi, Akinari Hoshino
2. 発表標題 International Education with ICT During COVID-19 Pandemic: Japanese Universities' Experiences
3. 学会等名 APAIE 2023 2023年3月14日 APAIE (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 太田浩, 新見有紀子, 星野晶成
2. 発表標題 新型コロナウイルス下での 国際教育交流とICT -日本の大学における事例研究-
3. 学会等名 日本比較教育学会第58回大会 2022年6月25日 日本比較教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hayes Tang, Akinari Hoshino
2. 発表標題 Trash or Treasure? The Role and Future of Humanities Disciplines amidst the rise of Academic Entrepreneurialism
3. 学会等名 Australian Association for Research in Education 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroshi Ota, Yukiko Shimmi, Akinari Hoshino
2. 発表標題 International Education and ICT During and Post COVID-19: Japan's Experiences and Perspectives
3. 学会等名 4th Symposium of the World Council of Comparative Education Societies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田浩, 星野晶成, 新見有紀子
2. 発表標題 ポストコロナに向けた国際教育交流 -ICTを活用した新たな教育実践ならびに国際教育交流の可能性と方向性を考える-
3. 学会等名 第57回日本比較教育学会(ラウンドテーブル)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akinari Hoshino, Hayes Tang
2. 発表標題 Emotional Positioning in Academic Internationalization: Interactionist Perspectives between Japanese Universities and Southeast Asian Counterparts
3. 学会等名 Comparative Education Society of Hong Kong 2021 Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akinari Hoshino, Yukiko Shimmi, Hiroshi Ota
2. 発表標題 The New Frontier of Study Abroad from Japan: Policies, Impact and Program Development for Non-traditional Programs
3. 学会等名 The Forum on Education Abroad: 17th Annual Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 星野晶成
2. 発表標題 日本人大学生の留学変容 -ASEAN留学プログラム開発・実施における卒業生の役割-
3. 学会等名 日本教育社会学会第72回年次研究大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 星野晶成
2. 発表標題 非伝統的留学プログラム開発・実施に影響を与える要因について -日本の4大学のASEAN留学プログラム事例-
3. 学会等名 第41回異文化間教育学会年次大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関